

当方スタッフも1月初旬からそわそわが始まり、中旬以降は仕事にならない。世間も言めて全てのベトナム人が同じような感じである。日本で言うと師走の忘年会が盛んに行われている時期にあたり、年明け早々の日本人とは温度差が違つ。何度経験してもこのま

サービス業なら休みが取れない所では休日出勤扱いで平日の2倍の時給を払つ必要がある。それでも無理強いはできない。なぜなら田舎から出てきた人たちはこの旧正月休みが家族に会える唯一の楽しみなので、会社を辞めてでも帰つてしまう人が多いためだ。

ベトナムは中国と同じく旧暦で正月を過ごす国である。年間を通して祝日が少ない中、旧正月（ベトナムでは「テト」と言う）は長期で休みが取れる唯一の行事だ。そのため、故郷に戻るベトナム人の民族大移動が始まる。ちなみに政府が定めた今年の旧正月休みは2月10日～16日。この時期は特別な理由がない限り会社は休みを取得させなければならない。



徳嶺 勝信

旧正前 一家集合心待ち

ベトナム

(YINACOMPASS代表)

る。次回は、県ソウル事務所の平安常事務所長です。

仮に市中感染が起きても素早く検査と隔離をするため、ほぼ心配ない状態だ。ベトナム政府は感染症に対するノウハウを蓄積しており、今回の新型コロナ対応では国民の信頼は厚い。今年は経済が大きく回復すると予想している人が多くおり、世界銀行が予想した成長率は6.8%。国内での新型コロナの収束次第になるが、楽観的に言つた前向きな人が多いベトナムでは経済回復は早いと実感する。

特に外資（外国人）向けのビジネスではいまだに外国人の入国制限が続いており、観光産業や貿易、不動産業が影響を受けている。救いなのはベトナム政府が感染症対策（検査と隔離）を徹底的に行っていることだ。外部からの侵入を抑えているので、国内ではマスクの着用はあるが比較的平時と変わらない生活を送っている。

ベトナム統計総局は昨年12月27日、2020年の実質経済成長率（推計値）を2.9%と発表した。新型コロナウイルスのパンデミック（世界的大流行）の中では他国と比べて高水準ではあるが、おとしの7.1%、昨年の7%からは半分以下に落ち込んでいる。

チベーションの差だけは埋まらな

い気がする。